

3/22 朝、出発前にバビラの川に入る。最高に楽しかった。けど、誰も
時間のことも気にせず、また2時間程遅れし出発。Kurussaの街へ
また、車を直したり、何だかんだで4時間位待って出発。
CONACRYにたどり着かず、途中のDABORAという街の
JAIME L HOTEL SINCERYというホテルに泊まる。
久しぶりの便器とシャワー（ぞき出ない）に感動!!
ビールも飲んど、やはり人間の文明はすごいなまじと改めて実感。
早速、テレビニュースもみた。福島のコア発電所が爆発して、
その放射能がフクシマから流れしゆく分布図みたいのを
何處も流していた。日本が毒をばらまいて、世界の海や空を
汚ししまった。誰もがわかっているがどうもなされた事が起った。
これからどう生きしゆくのか、どこへ行けば安全なのか?
もう一度、よく考えし生きしゆく時代が来たと感じた。
久しぶりにのんびりした夜だった。
周さんの体調も徐々に回復。一安心した。

3/23. HOTEL. 最高だった。久しぶりに冷えたビールをのんだらで、
お腹がびっくりした。夕に食われたり、水が出なかったりした
けど、ここは最高だった。疲れもとんだ。またいっしょにジレく出発は
遅れ、今度こそ CONACRY へ。途中、バスを日本人だけで乗って、
今後、帰るまでの車を話し合った。明日に控えている Famoudou
さん邸でのコンサートもどうするか。皆んなで意見を交わした。
こんな時だからこそ、祈りを含めて、やろう! という事になった。
車の中でうたの練習もしたら、次に停車した村で、サリンと
バンジユが、ワイド節をちゃんと覚えた!! と言。こくやで、今度は
アフリカンキーンと、車内でワイドワイドと唄って楽しんだ。やはり
三味線好き、ときどき大正解だった。やはり、彼らも伝統音楽の
継承者たちなので、日本の伝統をリスニングしてくれていた。
彼らが知りたいのは、AKBとか SMAP とかではなく、本物の

この海に囲まれて、自然が豊かで人も温かい。食べ物もおいしい。
気候もいい本当にすてきな国 ジャポンの ジャポネが作。た
楽器や唄を聞きたいのだ。僕らも、自身を持ち、日本の景色を
思いうかべながら堂々と日本の唄を世界に発信するべきだと
じかに思った。今や日本は、ほとんどアメリカで、日本の伝統を
クソだと思わせる教育を受け、食生活も暮らして自体も変わり、
日本らしさはかたじけなくもない。しかも完全に足踏させられている。
日本は日本にしかないならかしやしたり、唄、足踏、生き方が
あるはず。古い知識をもっと大切にしなければ、唐、ゆえく。
でも、アフリカの人には、伝統文化に誇りを持ち、いる。自ら量りこく。
僕たちにも誇れる文化がある。じぶんじぶん勉強して伝えよう。
DABORA — CONAKRY も遠かった — 。心が折れそうに
なつた。でも、シンバヤの SAYON 宅に着いた瞬間に、すていた唄
の顔が出迎えてくれた。村へ行く前に、3日間くらい、すていただけ
なのに、こんなに喜んでくれるとは。癒やが、一気にふつと来た。
このエネルギーがアフリカなのだ。政治家に貧乏と空腹を
押しつけられしも関係なし、明るくエネルギーが、シユたのや、は、人間。
こじやなきや。人のせいにしていじけとも何も走らなない。
日本ももう一度、元気で、エネルギーで。

3/24. Kouya Sydya Folikan とこの最後のコンサートを。

ファンドラコステ氏のお家じやうでと頂くことになり、人もい、は、
来てくれた。僕らのコンサートは盛りだくさん。

1曲目：奄美島唄：朝花節、感謝を込めて独奏。

2曲目：ワイド節：お客様も含めて、全員で華輪あびり。

3曲目：Sayon'ibarana : クマシテシアに Sayon かり、来たといふ

4曲目：Soli ~ Soli Boba : 割礼の唄。みんな Soli でよく足踏る。

5曲目：Kawa : Faranah の伝統曲。足踏りがかわい。

6曲目：クリ (ラニシキ) の静岡のまつりの口上、そして、ちやん (レンケ)
のファイヤ-ダンス。村の人たちは腹を括弧に入れていた。

7曲目: ボロンとギターとクリンでクヤテ氏か"唄う。
声にめちゃきれい。

8曲目: 沖野氏の乙いんさくぬ花~ NINTRO (バスの中で作った)
日本とコンテラング高重合ー!! (3/24のみ演奏)

最後: もちろんだらドランバー。CONAKRYのダンサーズは
すごい身体能力でガンガン足踏してくる。

という感じで、バンドというよりは、民族楽団という感じだった。
いい経験もさせてもらって、本当にありがたい。

3/25 昼、11年前にお世話になった、Percussion de Guinea の
Lamine Lopez 氏の家にあいさつに行くと Matam の街に行くと
Lopez 宅の周りはあまりにも変わりはなくて、全然解らなかつた。
Lopez のおくさんも居なかつたので、あいさつも出来ずに時間ま
たかり帰る。心残りだが、また来よう。

DIXINE の街で、カラモコ、カマラのレコーディングに、東隆が
エンジニアを平伝という事で付いて行く。すごい腕で、
ほとんどの機材で素晴らしい演奏をしていった。さすがだった。
マシンのトラブルなどであつたという向に夜になる。モコは、その日の
飛行機で日本に帰るべく、急いでいった。途中、モコの定家には
寄って、お母さんたちに会う。そして、その場で牛をさばらせてくれた。
山羊、山嵐、なまらしい動物をさばらせているのを見せせて頂いた
が、牛は強かった。本当は、この思いをしなかつた、牛やお肉を
食バちゃいけないんだらうな。太鼓も同じく、この思いをしなかつた
皮を張る、どうなにか、と思えた。

今日、コンギアを脱ぐ大輔(モンモンバー)と、ちん(シンケ、コテ)
と真実(ニシウケ)を空港に送りに行く。もし及ばず出国できなかつた
も? みたいなのアフリカンアシランとがあつた様だが、金で解決。
本当、めちゃくちゃなあー。

3/26 朝から、伝説の男、Kunbanan Konde 氏のワークショップを受け。すじいぜいたくな時間だった。最後に、質問を、と言われたので、本題のいゝところはず、と聞くと、クンバン氏は、「ギニアは大きい戦争が今までになり。いゝも本題で繋りもや、というので戦争している暇がない。」と言っていた。そうか！繋りた。日本に足りないのはまっりた。怖たら、小さくてもいいから、まっりもやり繋りけようといゝ決めた。ワークショップの途中で、ケイタ氏が Lamine Lopez の息子 Mohamad Bangoula を連れてきてくれた。彼は、10年前に会ったことを覚えていゝとて、Lopez の写真やらいゝいゝ本、2冊をくれた。その写真の一枚に、今回のツアーの、ちやい良くなった日本在住のセリバ、ケイタ氏の弟、アジー、ケイタの妹さん、伝説のシンバフオウ、故ノモティ、ケイタ氏の妻が写、りて、アジーは大興奮していた。最後の日なので、いゝいゝしたかたが、休けいゝと昼寝してたり、夜にな、りて、SABAR ダンスと、DISCOTIQUE に出かけた。ギニアダンスはサイコ——！曲がイケイケで、いゝまじでも踊れる。ダンス2件とサバルダンス2ヶ所をはしごした。ジキゲンで最後の夜は終わった。

3/27、朝、最後のミーティング、一人一人感謝をのべる。すじいゝ習慣だ。お互いをお互い合、りて、事を言葉でたいた合、りて、すばらしい。最後のワークショップ、サリンのダンスワークショップが、つたたかせ2もう。安心たか、久いぶりに熱が出た。バタバタして、また乗りあかえらにな、たのでかなりあ、りて、あ、りて、ごもまた来る、りて、ことだと思、りた。日本はどうな、りて、いるんだら、りて、浦島太郎だ。しかし、ギニアは最高だ。みんな無事で何よ、りた。いろいろな乗馬もせ、りて、東睦はじめ、みんな本当にありが、りて、本当にいゝ仲間たちといゝ、時間す、りて、まじ、りて、日本で起、りて、った事にも全、りて、感謝。